

日頃の生活へ生かすための生活科の授業実践 ～主体的・対話的で深い学びのための授業のポイント～

小田 貴史 (熊本大学教育学部附属特別支援学校)
八幡 彩子 (熊本大学大学院教育学研究科 熊本大学教育学部附属特別支援学校長)
竹中 伸夫 (熊本大学大学院教育学研究科)

本校小学部における「生活科」とは



教科等を合わせた指導

生活単元学習

月	単元名
4	新しい学級 春の立田山
5	運動会をしよう
11	すずかけ祭りをしよう 秋の立田山
12	もうすぐ冬休み
1	冬の遊びをしよう 冬の立田山
2	おめでとうパーティー
3	1年のまとめ

朝のしたく 朝の会 係活動 遊び 朝の会
給食準備 掃除 帰りのしたく 帰りの会

期間集中型

公共の施設や買い物, 調理など活用場面を含めた単元構成

月	1組	2組	3組
5月	学級園をつくらう	学級園をつくらう	学級園をつくらう
9月	パーティーをしよう	ひごっこジャングルにいこう	買い物にでかけよう
10月	いもを収穫して調理をしよう	いもを収穫して調理をしよう	修学旅行事前学習
9月2月	ぼくもわたしも名人さん		

教科「生活科」

コマ取り型

「基本的生活習慣」に関する内容など、日々の学校生活の中で活用場面が多い内容

月日	1組	2組	3組
6/4	掃除・台ふき	掃除・台ふき	掃除・より良い掃除の仕方①
6/11	掃除・ぞうきんがけ	掃除・ぞうきんしぼり	掃除・より良い掃除の仕方②
11/22	秋をさがそう		
12/11	身だしなみ	ハンガー	身の回りの整理①
12/18	ハンガー	服の畳み方片付け方	身の回りの整理②
1/21	手洗い	うがい	清潔・顔の汚れ
2/4	うがい	家族のこと	清潔・給食時

「コマ取り型」は、活動方法の習得だけでなく、日ごろの指導では取り組むことが難しい行動の「意味」や「理由」への気づきを学習する場として設定している。月曜日に実施することで、学んだことの定着・般化を確認。

学んだことの活用

主体的・対話的で深い学びのための

授業のポイント

～「身だしなみ名人になろう」「ハンガーかけ名人になろう」より～

小学部1組の児童について

- 1年生3人(男子2女子1) 2年生3人(男子2女子1)
- ・日頃の取組から、おおまかに身だしなみを整えたり、ハンガーを使ったりする経験はある。
- ・より良い取組方に関する知識や技能が身につけてなかったり、「なぜハンガーを使った方が便利なのか」等の行為の意味を知らなかったりする。
- ・話が中心に興味を持てなかったり、内容の理解が少しでも難しかったりする
- ・言葉による長い説明の理解は難しいが、テレビを用いた視覚的教材には注目することが多い。

A) 授業のストーリー

- 1 前時の振り返り【学びのつながり】
- 2 本時のめあて～課題提示～【学習意欲の向上】
- 3 考える時間～一人でもみんなで～【自らの考え】【友だちの考え】
- 4 考えの検証【達成感】【自己・他者評価】
- 5 本時の振り返り【学びをつなげる】【達成感】【自己評価】

前時の学習様子を振り返り、改めて達成のできた様子を見ることで、本時に対する期待感を持つ様子が見られた。「今日は何の名人かな～」

B) 課題提示の仕方

動画など視覚的教材を用いた課題提示

授業のねらい、課題に引き込むことに有効だった。動画を見ながら、子どもたちが気づきを口々に言葉にする場面も。「先生、だめだよ～」

C) キーワード

キーワードの用意 リズムに乗せて

えりをまげる ボタンをとめる
したぎをいれる かかとはふまない

そでをいれる そでをいれる
かたをもって かけましょう

リズムに乗せたフレーズは、印象に残りやすかったようで、取り組みへのきっかけになっていた。日常生活でも口ずさみながら取り組む姿も。

D) 授業のゴール

「○○名人」になろう!

○○名人を目指して、最後まで取り組む姿。「名人」になったことを家庭に伝え、取組の共有ができた。「学校で、できたよ!」

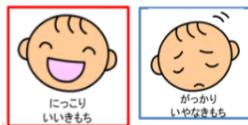
E) 比較

どっちが良いの?どこがおかしい?比べてみよう



比較したイラストや写真に気づきを示すためのシールを貼ることができた。「ここが×だね～」

F) 考えの表出



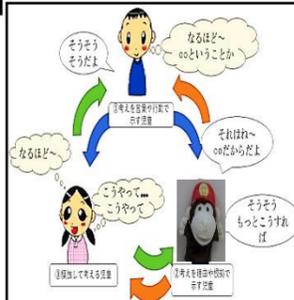
気持ちを言葉にしやすいようなイラストによる提示(にっこり, がっかり)

表情のイラストから、なぜそのイラストを選んだのか言葉で表現できた。「ぐちゃぐちゃは、いやな気持ち」



G) キャラクター

興味をひきつけ 教えて!「せいかつくん」



子どもたちにとって「先生」としての存在。興味深く動画を見る様子があった。



H) 発表の順番

友達をモデルに

友だちの様子を見ながら、正しさに気づき、真似て取り組む様子が見られた。「そうすれば、いいの!」

共同研究者からのコメント



竹中准教授: 授業づくりにおいて、児童の現状の少し外側を狙い、同化-調節をスムーズに行うことが肝要。

八幡教授: 日常生活の課題を焦点化して「生活科」で取り上げ、なぜ問題なのか、どうすればよいのか、といった「理由づけ」や「課題解決の方法」とともに学んだからこそ、日常生活における行動変容につながったのだと思います。本授業は、児童が「主体的」に学ぶ仕掛けや魅力的な言葉による「対話的」活動が満載。このような授業の積み重ねにより、よりよく生活しよう、よりよく環境にかかわろう、とする「学びに向かう力」が育まれることを期待する。

授業後の様子

- ・着替え後や排泄後に自分から身だしなみを整える様子が増えた。
- ・ジャンパー等を脱いだ後、自分からハンガーに丁寧に掛ける様子が見られるようになった。



今後の生活科

- ・学年(組)によるねらいの整理
- ・指導内容による指導場面の整理
- ・家庭、学校生活での取組の共有
- ・他教科との関連
- ・地域資源の積極的活用

子どもの育ちの中心としての教科

